



木木

千葉県TEACCHプログラム研究会
2019年7月20日(土) 第102号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県TEACCHプログラム研究会広報部

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内 TEL 043-227-8557

ホームページ：<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>



令和元年度 第1回 連続セミナー

「自閉症スペクトラム（ASD）の理解と支援 ～障害のある子の父として～」

旭中央病院 脳神経外科

千葉県自閉症協会 会長

大屋 滋 氏

令和元年5月11日(土)、連続セミナーの前に、千葉県教育庁の皆様を始めとする多くの御来賓の皆様にご臨席を賜り、千葉TEACCH研の総会が行われました。御来賓の皆様、会員の皆様、総会にご出席いただきまして、ありがとうございました。

さて、今回のセミナーは、自閉症のあるお子さんをもつ脳神経外科の医師であり、千葉県自閉症協会会長である大屋滋氏に「保護者としての視点」から、ASDの方を理解すること、支援することの大切さについてお話をいただきました。

まず、お子さんの生い立ちや保護者としての立場や思いについて話されました。成長の記録として保存していた多くの動画を紹介してくださり、お子さんが興味関心のある物で夢中で遊んでいる様子や活動の切替えに時間を要する場面等、具体的な特性について説明していただきました。

また、日本テレビのドキュメンタリー番組「スーパーテレビ情報最前線」で数回、お子さんとの生活についての取材が放送されたこともあり、そのときの映像も御紹介いただきました。御紹介いただいた映像は、地域で生活していくために必要なスキルの一つ「買物」でした。「近所のコンビニに一人で行く」という活動でしたが、クリアするために、丁寧に多くの手立てを考えられました。

①一緒にコンビニに買物に行き、道順や買い方について確認する。

②コンビニの店長に本人一人で買物にくることを伝え、協力を依頼する。

③買物の手順（コンビニの写真、）を写真カードで提示する。

買物当日は、お子さんの苦手な犬が通る道にいて、なかなか前に進むことができなかったり、コンビニに着いたもののスムーズに入店できなかったりする場面がありましたが、無事に一人で買物をして帰宅することができました。帰宅後のお子さん本人の達成感に満ちあふれた表情や大屋氏、奥様、妹さんのほころんだ笑顔が印象的でした。

このように、お子さんの生活経験の幅を広げていきながら、成功体験を積んでこられた御家族です。現在、成人となられたお子さんですが、大屋氏は、今、一番大切なことの一つは、「自分の『意志』『選択』『表現』」だとお話しになりました。ASDの特性の一つであるコミュニケーションについては、本人に合った「話し言葉や絵、写真や文字、パソコンやIT」といったツールを使って、本人の言いたいことを十分に引き出すことが大切であり、そのことがコミュニケーション面のバリアフリーになると話されました。また、意思決定の支援として、有意義な選択肢を作ることの大切さについても話をいただきました。

セミナーの後半には、この千葉TEACCH研副代表として千葉TEACCH研の発足についてのお話、NPO法人「あおぞら」代表としてのお話、医師の立場からのお話がありました。最後に、「これからも焦らずに、強みを生かしながら、できる範囲で、できるところまで、ゆっくりやれば良い」「親はしんどいけれども、楽しい」とあり、様々な顔をもつ大屋氏の話に引き込まれた3時間でした。

実践セミナーの報告



今年度も6月22日（土）、NPO法人 自閉症eサービス理事長である中山清司 氏をお迎えして、実践セミナー「アセスメントに基づいた支援の組み立てーTTAP検査を基にー」を開催しました。

「TTAP」とは、TEACCH Transition Assessment Profireの頭文字をとったもので、青年期・成人期心理教育診断評価法（AAPEP）の改定版です。この検査には、「自閉症のある青年・成人の人が、今、身につけている力はどんな力なのかを支援者が的確に把握すること」と「学校生活から社会生活へと生活の場を移行していく中で、適切な移行支援計画を立てていくこと」等の目的があります。

まず午前中、「TTAP」についての講義がありました。TTAPの目的や意義、一つ一つの検査項目について、丁寧に御講義いただきました。

午後は、特別支援学校高等部の生徒さんに御協力いただき、実際に受講生が生徒さんに検査を実施し、その様子を見ながら各検査項目について各自で評価を行いました。あらかじめ、検査を実施する前に、検査道具を手に取りリハーサルをすることで、午前中の中山先生の講義もより具体的に分かり、検査内容についてイメージすることができました。初めて実施する検査でしたが、受講生は緊張しながらも落ち着いて検査を進めていくことができました。また、検査を実施しない受講生も映像を見ながら、項目ごとに自分たちで評価をすることで、実際に検査を実施している感覚をもつことができました。

最後は、検査結果を基に具体的な支援計画を立てました。今回のアセスメントから本人の特性や得意な点をしっかりと把握して、「苦手な部分をどう補うのか」「もう少しでクリアできそうな課題は何なのか」等をグループで話し合い、中山先生に講評いただきました。

受講された方から、一人一人、アセスメントをすることの大切さや的確な評価、根拠に基づいた支援計画の在り方について実感することができた・・・との声をいただきました。

今回の実践セミナーを開催するに当たり、検査に御協力いただきました特別支援学校高等部の生徒さん及び保護者の方に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



令和元年度 TEACCHプログラム研究会 第3回連続セミナーのお知らせ

期 日 : 9月28日（土）13:30～16:30
場 所 : 千葉商工会議所 14階 第2ホール
演 題 : 「当事者からのメッセージ」（仮題）
講 師 : ソルト 氏

（編集後記）今回の大屋氏のセミナーでの「お子さんへの関わりや取組」、中山先生の実践セミナーで共通して言えることは、一人一人の自閉症の人についての的確に把握すること、つまりアセスメントですね。支援者がいくら様々な手立てを講じて、一人一人の自閉症の人に合わせた的確な支援でなければ、意味のないものになってしまう。もしかしたら、自閉症の人にとっては、いい迷惑になっている可能性も考えられる。「視覚的支援」や「構造化」、「スケジュール」や「支援計画」ほか、丁寧に考えていきたいですね。自閉症の人が求める支援を目指して、これからも一緒に勉強していきましょう。（山中）